

クック  
テを設  
マール  
新会社

# 粉体測定事業に参入

## 電池材料など 開発ニーズに期待

マークテック（東京都大田区、西本圭吾社長）は7月3日、新たに粉体物性測定（微粒子）の事業に参入するため、100%出資の新会社「ハイテクノライズ」を設立し、新社長に鈴木大輔氏が就任したことを発表した。ハイテクノライズは数多くあるマークテック関連会社のなかでも分析事業の中核となり、グループ最大利益への貢献を旨とするとしている。鈴木社長は新たに立ち上げたハイテクノライズの使命について「先進技術で社会の持続的な成長を支える」ことであると、「先進技術を取り込むために常に挑戦していかなければいけない。なにより新しいことに挑戦していく必要がある」と意気込む。



新会社の鈴木社長

同社の具体的なビジネスモデルについては「受託検査」と「装置販売」の2つの柱を挙げている。主な取り扱い装置は現在2製品あり、まず粉体の容積を一定に保ちながら断断操作を行う「粉体摩擦試験装置」では粉体の物性や摩擦性、付着性を測定することが可能だ。わずか1ミリの少量サンプルでも測定が可能で、電池材料の成形性や充填性などを設計段階で計測することができ、もう一方の粒子単位で



粉体摩擦試験装置

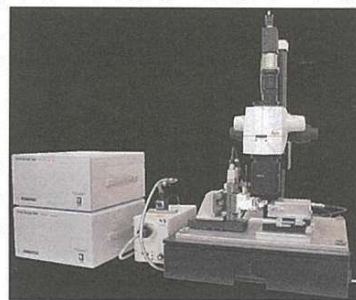
これらの装置により、先端技術を含めた粉体物性の測定ニーズを捉えながら、強固な事業基盤の育成を図っていく。成を「粉体の物性測定は、電池材料や金属3Dプリンタ、医薬品、化粧品、食品など様々な分野で必要とされている。とりわけ全固体電池を代表とする電池材料や金属3Dプリンタなどは時代のニーズに伴って急成長が見込める」と期待を寄せる。

また、「成長著しい3Dプリンタや全固体電池などを開発段階から技術サポートしていきたい」として、広くマークテックグループの技術融合による新製品開発にも取り組んでいく考えだ。

硬さを測定する「粉体強度試験装置」は10ナノニュートン〜10ニュートンまでの広範囲で粒子の強度や弾性測定などを計測することができる。これらの測定装置は従

来も存在していたが、「他社にない高い分解能や一度に大量の測定情報を取ることができるという点が最高水準の技術力の証し」でもあり、同社でもそうしたアドバンテージを広くアピールしていく方針だ。

鈴木社長は「品質向上に大きく寄与する測定装置であり、顧客の製品開発などのシーンに大きく貢献できる」と語る。こ



粉体強度試験装置